

## 保育園児が高齢者と一緒に避難訓練

11日、杉並区松ノ木1丁目の高齢者グループホームと隣接する保育園が、合同の避難訓練を実施しました。また、この2つの施設利用者の安全を確保するため、地元の松ノ木町会（小川宗次郎会長）や防災会、消防団などが避難の誘導や介助などを行いました。

「グループホームなごみ松ノ木」（松ノ木1-12-50）には、認知症の診断を受けている高齢者27名が生活しています。27名の平均年齢は84歳で、要介護2～5の方々の万が一避難を行うことになれば、施設の職員だけで全員を避難させるには、相当な時間が必要になります。そこで、開設以来、地元の町会や防災会の支援を受けることを前提とした訓練を行ってきました。

一方、高齢者グループホームに隣接する「にじのいるか杉並松の木保育園」は、平成28年4月に新たに開設した私立認可保育所で、0歳児から5歳児までのクラスに80名が通園しています。この2つの施設は、同一敷地内に隣接していることから、普段から行き来をする関係でもあります。

園児も高齢者と同様、災害が起きた時に安全に避難をするためには、町会などの支援が大きな味方になります。そこで、町会に相談をしたところ、地域の子どもたちの安全のためなので、防災会・消防団も含め、全面的な支援を受け、今回の共同訓練を実施することになりました。

高齢者グループホームでは、3月11日午後0時30分、震度6強の地震が発生。まずは枕や本など身近な物を使って、激しい揺れから身を守るシェイクアウト訓練です。その後、1階台所から出火を想定。職員や消防団員の誘導で利用者たちを屋外に導き、さらに避難所に指定されている400mほど離れた小学校の校庭まで移動しました。そこに園児たちも、町会や防災会のメンバーとともに合流し、消火器を使った訓練などを行いました。



本日の訓練には、グループホームから約30名、保育園は園児や保育士、保護者など30名、町会や消防団などを合わせ、約100名が参加しました。保育園の前田佳代子園長は、「高齢者や子どもたちは、災害弱者と位置付けられています。年長の子どもはまでも、保育園には幼い子もいるので地元の町会などが目を掛けていただけることは、とても心強いです。」と話しました。

【問い合わせ先】 グループホームなごみ松ノ木：TEL：5378-7530  
総務部広報課：TEL：3312-2111